

# 自律英語学習を促進するための自己評価用紙の作成について

坂田 浩

徳島大学高等教育研究センター

## 1. はじめに

日本人英語学習者が日本語環境下で実用的なレベルの英語力を身につけるためには約3,000~4,000時間の長期にわたる学習が必要であると言われており(Fukuda, Sakata, & Pope, 2017; 坂田 & 福田, 2018)、そのためには大学卒業後も学習者が自らの力で継続的に英語学習を実践できる「素地」が必要である。その素地の中核に位置するものが、いわゆる英語学習に対する自律性(Autonomy)や主体性(Agency)と呼ばれるものであり、これまで筆者は長期的な視点に立った自律英語学習支援を目的とした実践を自身の英語授業で展開してきた。本発表では、まずこれまでの実践に関する概説を行い、続いてその取組の中で作成した自己評価用紙について解説し、最後に自己評価用紙の実際の使用感と今後の方向性について報告したいと考えている。

## 2. 授業としての自律学習支援

従来の英語教育における自律学習支援は、どちらかと言えば間接的なものが多く、英語力を向上させ、英語を使って何かできることを実感させることで学習動機を向上させ、その結果として自ら学習することを助長するものが多かった。2000年以降になると、個別の学習者に対する対応が注目されるようになり、自律学習支援も学習支援やアドバイジングなどのより個別的で直接的なアプローチ(Kato & Mynard, 2015)が取り入れられるようになった。

この流れの中で、筆者らは「授業として自律学習を実践する」ことに着目し、実践を行ってきた。具体的には、授業後の継続的な自律学習に必要なメタ学習スキルを獲得させることを目的に、教師が主導的に自律学習に必要な知識とスキルに関

する学習を指導する「指導期」、教師の指導・助言を参考に学習者自らが学習を立案・実践する「実践期」、授業後の自律学習を考える「自立期」という3つに分け、継続的な自律学習に不可欠な学習の先延ばしへの対応や学習の立て直しなどについての支援を行ってきた。

特に「実践期」においては、

- ① 授業中に週間学習計画を立案し、具体的な時間配分や学習教材などについて考える
- ② 立案した学習計画に沿って授業外の時間で自主的に学習を行う
- ③ 終了した学習計画の達成度を授業中に評価し、課題を明らかにするとともに、次週に向けた学習計画を立案する

といった流れで授業を展開しているが、この一連の実践の中で多くの学習者が「スマホで動画を見てしまい、学習が上手くいかなかった」「予定通りにいかなかったことで自分を責めてしまい、なかなか学習が再開できない」といった課題に直面する。これら学習の先延ばしや学習の立て直しといった課題は、いずれも長期的な英語学習に大きな影響を与えるものであり、具体的な対応が求められるものであるが、その第一歩となるものが次項で述べる自己評価であると考えられる。

## 3. 自律学習における自己評価

自己評価は自律学習の中核である(Benson & Reinders, 2011; Kato & Mynard, 2015)と同時に、学習者にとっては非常に難しいものでもある。特に、日本人大学生の場合、もともと英語学習に対しネガティブなイメージを持っている場合が多く、実際に自分が実践してきた学習を「自分は英語が苦手だから」という理由だけで安易に過小評価して

しまい、その結果学習が継続できないケースが散見され、本実践においても当初からの課題となっていた。

そこで、本実践ではこのような偏った自己評価を見直し・修正するためのガイドラインを自己評価ワークシート(図1)という形で提示し、否定的な自己評価からの脱却と継続的自律学習のポイントに関する学びを推進する活動を取り入れた。ワークシートでは、認知行動療法での実践を参考に、「認知」・「行動」・「心理」という3つの側面で「実践期」における毎週の英語学習を評価することにした(坂田 & 福田, T, 2011)。

		Week 02	Week 03	Week 04	Week 05	Week 06	Week 07	Week 08	
		6/18~ 6/22	6/23~ 6/29	6/30~ 7/6	7/7~ 7/13	7/14~ 7/20	7/21~ 7/27	7/28~ 8/3	8/4~ 8/10
認知 (高)	1 英語学習を「楽」と思っていない目標・ビジョンを掲げている								
	2 学習の目的・ビジョンを明確にするための行動力・計画・モチベーションが不足している								
	3 学習の目的・ビジョンを明確にするための継続的行動・モチベーションが不足している								
行動 (高)	4 英語学習を楽に感じている								
	5 学習の目的・ビジョンを明確にするための行動力・計画・モチベーションが不足している								
	6 英語学習を楽に感じている								
心理 (高)	7 学習の目的・ビジョンを明確にするための継続的行動・モチベーションが不足している								
	8 学習の目的・ビジョンを明確にするための継続的行動・モチベーションが不足している								
	9 学習の目的・ビジョンを明確にするための継続的行動・モチベーションが不足している								
総合 (高)	10 総合的な学習の成果が顕著に表れている								
合計									

(図1: 自己評価ワークシート)

同ワークシートでは、認知・行動・心理の各カテゴリーで15点(各項目5点)を最高得点として評価し、それに総合評価(5点)を加えた計50点で評価を行うが、実際の授業においては各カテゴリーの得点に着目しながら指導・助言を行った。具体的に言うと、「学習計画の立案などの認知面での評価は高いが、実際の学習行動に関する評価や気持ちの切り替えと集中などの心理面での評価が低い」傾向を多くの学習者で確認することができたが、この傾向に対し「まずは気持ちを整えてから英語学習を行うようにしよう」、「とにかく学習をやってみて、それから気持ちを整えてみよう」などの助言を提示し、その助言を参考にしな

がら学習者自身が次週の方針を選択し、学習計画の立案を行うように指導を展開した。

4. 自己評価用紙の使用感と今後の方向性

図1に示す自己評価用紙の使用感を把握するためにアンケートを実施したところ、概ね良好ではあったものの、使用しているリカード尺度での判断が難しいとの回答がいくつか見られたため、図2のようなループリック形式の評価用紙を作成した。

	1	2	3	4	5
認知	学習の目的・ビジョンを明確にするための行動力・計画・モチベーションが不足している	学習の目的・ビジョンを明確にするための行動力・計画・モチベーションが不足している	学習の目的・ビジョンを明確にするための行動力・計画・モチベーションが不足している	学習の目的・ビジョンを明確にするための行動力・計画・モチベーションが不足している	学習の目的・ビジョンを明確にするための行動力・計画・モチベーションが不足している
行動	英語学習を楽に感じている	英語学習を楽に感じている	英語学習を楽に感じている	英語学習を楽に感じている	英語学習を楽に感じている
心理	学習の目的・ビジョンを明確にするための継続的行動・モチベーションが不足している	学習の目的・ビジョンを明確にするための継続的行動・モチベーションが不足している	学習の目的・ビジョンを明確にするための継続的行動・モチベーションが不足している	学習の目的・ビジョンを明確にするための継続的行動・モチベーションが不足している	学習の目的・ビジョンを明確にするための継続的行動・モチベーションが不足している
総合	総合的な学習の成果が顕著に表れている	総合的な学習の成果が顕著に表れている	総合的な学習の成果が顕著に表れている	総合的な学習の成果が顕著に表れている	総合的な学習の成果が顕著に表れている

(図2: 自己評価ループリック)

ただ、図2の評価用紙に関しては、評価前の説明と評価自体に時間と手間がかかりすぎることから、毎週の学習評価には適切とは考えにくい。そこで、今後は図1の評価用紙に以下の記述(図3)を追加することで、より簡易化した自己評価ループリックを使用するようにしたいと考えている。

1:	全くできていない
2:	「守」先生の指導・助言のおかげで少しできている
3:	「破」なんとか自分なりに工夫してでき始めている
4:	「離」ほぼ自分の力でできている
5:	日常の習慣として自然に、そして継続的にできている

(図3: 評価尺度)

5. おわりに

自律学習支援において自己評価は非常に重要な役割を担っている。今後もより使いやすい自己評価ワークシートの作成に努めたいと考える。

口頭発表